

「 に、彼は神とその使徒を しているのだ 」

:

明: 言者ムハンマドによる慈悲と公正さの例。

目: [事 言者ムハンマド彼の性格](#)

より: アブドル=ワッハ ブ アッ=トライリ 博士

日 12 Nov 2013

集日 12 Nov 2013



言者ムハンマドは、神とその使徒をこよなく したアブドッラ という男についてこう述べています。「 に、彼は神とその使徒を しているのだ。」（サヒ フ ブハリ ）

このアブドッラ という名の男は、 言者を するあまり、マディ ナに持ち まれた珍味を 言者に提供することを しみとしていました。バタ やハチミツなどを ぶキャラバンの商人が到着すると、彼はそれらを 言者に寄 しました。その 、商人が支 いを要求すると、アブドッラ はその商人を 言者の元に れて行き、こう言いました。「この男にその 段を支 ってください。」

すると 言者（神の慈悲と祝福あれ）は、こう言いました。「あなたはそれを、私に寄 してくれたのではなかったのですか？」

アブドッラ はこう言いました。「神の使徒よ、その通りです。しかし私にはそれを支えることが出来ませんでした。」

二人は一 に笑い、言者は商人に を支 ったのでした。

これが、アブドッラ と 言者との の、密で な でした。

アブドッラ はアルコ ル中毒だったことが言及されなければなりません。彼はたびたびいつぶれていたため、公 の面前での酩酊に する刑を受けるため、よろめく足取りで 言者の前に れ まれ、言者はその度に 定の を彼に下しました。それは 繁に起きたことでした。

あるとき、この 繁な の、教友の一人がアブドッラ についてこう言いました。「神よ、彼を いたまえ！ 一体何度、彼はこのために呼び出されたことか！」

言者はその教友を叱 してこう言いました。「彼を ってはならない。神に誓って、もしあなたが、いかに彼が心から神とその使徒を しているかを知っていたなら。」（サヒフ ブハリ ）そして彼はこう付け加えました。「あなたの同胞に し、サタンの手助けを してはならない。」

この 言者の から、私たちは多くを学ぶことができます。

私たちはまず、この教友による不道 な 失にも わらず、彼と 言者との にあった 密で情のある について熟考すべきでしょう。言者は彼の立 にも わらず、アブドッラ と しく接したり、おどけたりすることを いませんでした。

このことは、言者によって形成された社会においては、人々が敬虔者と罪人とで分け隔てられたり、交流が妨げられたりしてはいなかったことを示しています。そこは 一された包括的社会であり、各人はそれぞれのレベルの敬虔さでいることが出来たのです。彼らの一部は敬虔さの 点にあり、一部は中庸にあり、また一部は罪を犯しがちでした。しかし、その中 の も社会からは隔 されておらず、忌避されてもいませんでした。そこでは もが社会の一部を 成していたのです。

この包括性は、社会の一が失に ったとき、その影 が最小限に留まったことを意味します。一人として追放はされなかったため、社会の片隅で罪が蔓延る余地はなかったのです。かが 失を犯したりしても、同胞的援助が断 することなどなく、彼らはお互いに んで助け合い、そうした人物が再び 道に ることの出来るようにしたのです。

言者の品行によって示されるもう一つの教 として、ポジティブな考え方を保つことの重要性があります。アブドッラ は公 の面前での醜聞によって、 繁に 言者の前に呼び出 されていたという事 にも わらず、 言者はアブドッラ が神とその使徒を しているという、彼のポジティブな性 に皆の 心を集めさせたのです。こうした性 について考えてみると、それはアブドッラ 特有のものではなく、信仰者が共通して持っているということ に 付きます。それでもやはり、 言者はその理由によってアブドッラ を褒めることを ん だのです。そうすることにより、 言者は皆の持つその特 を育み、 励し、 化させたのです。また彼は、たとえ かが ちを犯してしまったとしても、その人物の神への信仰と 情 は依然として残っていることを皆に思い出させたのです。

言者がアブドッラ についてそう言ったとき、彼がどう感じたかについては想像に くないでしょう。神の使徒が彼について言った言 を、多大な名誉として受け取ったはずで す。それは、 失によって彼の良き本 が永久的に なわれたのではないことを することにより、彼が自らの を り越えることの出来るよう、希望を与えることに役立ったのです。

これは、罪に ってしまった人物の良き性 を指摘するという、 言者の手段でした。に私 たちはそのことを忘れ、あたかも 去の罪が、将来の善を完全に遮断してしまっている かのようにつまみ取ります。不道 なる行 をした人物はたびたび、そこから け出すことが出来ず、その罪のみによって思い出されるのです。これは、サタンが罪人に付け むことを助け、罪を り返させるということをしなければなりません。照的に、言者による手法は、 を 起させます。アブドッラ の 繁な 酒を告げられたとき、言者は彼の持つ、神のその使徒を するという大いなる に言及したのです。

アブドッラ が ったことをしていたのは明 でした。アブドッラ が罪を犯したことに疑い
の余地はありません。 酒行 は大罪であり、 言者はワインをたびたび ったものでした。
しかし、 言者がアブドッラ に して公 の面前での酩酊の を下した 、それ以外には何も求
めませんでした。さらなる は、彼に してのサタンの加担であると なしたのです。その
代わり、 言者は彼の欠点から彼の 所へと皆の目を向けさせたのです。

言者のアブドッラ に する は、私たちがいかにお互いと接するべきかを示す ある教 だけ
でなく、いかに人々が罪に ることを思いとどまらせるような、より く、包括的で、教
育的な社会の をいかに育むべきかを示す、私たちにとっての れた例なのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1873>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。